

家庭教育応援研修会

本研修会は、家庭教育支援に関わる人等を対象に、家庭教育支援に関する現状の説明と講話を通して、支援を必要とする家庭への接し方や対応の仕方について、知識・理解を深め、実践に活かすことができるようにすることを目的に実施しました。管内の家庭教育支援に携わる関係者24名の参加者が学びを深めました。

研修Ⅰ＜説明＞「本研修の趣旨説明」

筑豊教育事務所社会教育室 社会教育主事 綿引 直人

研修Ⅰでは、まず、国や県の家庭教育に関する3つの調査データを用いて、県内の保護者が子育てに高い悩みや不安を抱えている現状、そして筑豊地区における家庭教育支援のニーズの高さを伝えました。さらに、国の調査研究で明らかになった家庭教育支援者側の課題が、参加者の持つ課題と類似していることを示すことで、本研修が自分事であるという意識を促し、本研修会における学びへの意欲づけを行いました。

研修Ⅱ＜講話＞

「変わる孤育て・変える子育て」～未来志向の保護者サポートの大切さ～

甘木山学園子ども家庭支援センターあまぎやま センター長 坂口 明夫 氏



坂口氏による講話では、参加者が子育てにおける保護者の悩みや家庭環境の厳しい現状と課題を踏まえ、家庭教育支援が必要な家庭への理解のあり方について学びました。

まず、坂口氏からは、「支援は始縁」の考えに基づき、保護者や子どもへの尊重を第一に行うべきであることをご教示いただきました。「支援は始縁」の考え方は、家庭教育支援者が一方的な援助をするのではなく、支援を通じて新たな人間関係を築き、保護者や子どもとともに成長する関係性を目指す考え方と教えていただきました。

また、参加者は坂口氏自身の幼少時代の経験から得た教訓「過去と他人は変えられない、自分と未来は変えられる」という言葉を教えていただきました。この言葉は、支援を必要としている保護者や子どもが過去の出来事にとらわれないよう、未来に向けた支援を行う重要性を強調したもので、参加者はこの言葉に深く感銘を受けていました。

さらに、参加者は家庭教育支援が単に保護者や子どもに手を差し伸べるだけでなく、保護者や子どもの「受援力」の向上を促す取組であると学びました。具体的には支援者が、安易に課題解決に向けて知識や一般論を一方的に伝えるのではなく、課題解決に向けて対話を通じた粘り強い支援を行い、保護者や子ども自身が、自らの課題に気づき、解決に向けた必要な助けを具体的に支援者に伝え、支援を受けるという力を促す取組が重要と教えていただきました。

参加者にとって本研修会は、参加者一人一人が家庭教育支援者としての役割を深く見つめ直し、今後の活動に活かそうとする新たな心構えと意欲を高める、非常に有意義な時間となりました。

【参加者アンケートから】（抜粋）

- ・今後の支援活動において求めすぎない始縁を心がけたいと思った。
- ・支援が必要な子どもや大人に対し、どのように関わり、声掛けをしたらよいのか、その基本の心構えを知ることができた。
- ・未来と自分は変えられるということを、研修を通じて学ぶことができた。
- ・支援する側の考え方そのものを変えることが、大切であるということがわかった。